



**第110号**

本紙は、ピースボート災害ボランティアセンターが、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙です。毎月10日、25日発行。

震災から5年。石巻に暮らす人々が今、どんな気持ちで前に進むか、共有すること、

**震災から5年にごとの復興写真展**  
**〇〇パネル主人公募集〇〇**

業の進捗状況、地域の取り組みに、震災前後の写真を紹介する

「石巻まちなか情報交流館」。街の将来像や復興事業の進捗状況、地域の取り組みに、震災前後の写真を紹介する。今回の企画展は2月11日～4月11日頃の約2か月間を予定。制作を担う石巻市NP支援オフィスの四倉禎一郎さんは「震災から5年の節目を迎え、新たな目標をもって前に進もうとしている方たちの夢や決意を表現したい」と話します。

「別に大きな夢や目標でなくても、趣味や仕事に打ち込んでいる姿、『あの時小さかった子がこんなに大きくなりました』といったものでも良いんです。年齢は不問。自薦他薦は問わないとのこと。時間の経過と共に、少しずつ前を向けるようになつてきたという方、全国から石巻を訪れる方々にメッセージを伝えたいという方、ぜひパネルの「主人公」に手を挙げてみてはいかがでしょうか。連絡先は、

「復興まちづくり情報交流館」  
【所在地】石巻市中央2丁目8-11  
【開館時間】9時30分～18時  
【休館日】毎週火曜日

**1・17 阪神・淡路を忘れない**  
**感謝と追悼の集い**

暗闇に浮かび上がった「祈1・17未来」の文字。日を忘れないの文字。「東日本大震災直後、神戸からの支援にとても勇気づけられた。感謝と追悼の気持ちを忘れず、未来を見つめていきたい」。1月17日、中瀬公園で追悼行事を企画した石巻スポーツ振興センターの松村善行さんはそう語った。震災の翌年から始まった追悼行事。朝5時からのキャンドル点火作業には市民70人が集い、地震発生時刻の5時46分に神戸の方向に向けて黙祷した。「5年も続けていると定着してくるんだね。プレッシャーもあるけれど、来年以降も続けていきたい」。どんな災害も大きな悲しみを生み出す。しかし、その地に想いを

**復興公営住宅**  
**関連情報**

復興公営住宅への入居を希望される方は、事前登録の手続きが必要です。まだ事前登録されていない方は登録手続きをお願いします。また事前登録にお申し込みいただき、まだ復興公営住宅が決められていない方には、「入居者募集のご案内」を送りつけています。ご確認ください。なお、募集

期間は2月1日(月)～18日(木)で、午前9時～午後5時までです(2月7日は休日窓口で午前9時～午後1時まで)。  
◎復興公営住宅 事前登録相談窓口 0225-195-1111 (内線3981) 3983  
◎専用ダイヤル 0225-190-180 41/0225-190-18042 (9時～17時/土日祝除く)

**旧門脇小・旧大川小校舎保存・解体に関する公聴会**

石巻市では被災した旧門脇小および旧大川小の校舎を遺構として保存するか否か、保存する場合の意義、整備費用、維持管理経費、解体する場合の土地利用について検討しています。市民の皆様のご意見をお聴きするための公聴会を開催します。  
2月13日(土)10時～ @ 門脇中体育館  
2月13日(土)14時～ @ 飯野川中体育館  
問合せ：市役所復興政策課 0225-95-1111 (内線4222)



キャンドルに火を灯す人たち

馳せ、祈りを捧げる人の姿は、美しい。何年経っても、どこに居ても、決して忘れないでいようと思う。(ピースボート あき)

み なさま、お久しぶりでございます！ けんたるうです！ 第89号(2015年2月)まで「出張自治連だより」というコーナーを担当していました。ぴったり1年ぶりです。いま僕は、石巻市社会福祉協議会(社協)に所属し、仮設住宅・復興住宅・地域の方々と関わらせて頂いています。この度、仮設きずな新聞の終刊という大切な節目に、個人としてご挨拶させて頂くこととなりました。

仮設住宅に住まわれている方も、かなり減りましたね。残っている方からも、移られた方からも、寂しさや不安のお声を伺っています。一方、僕としては、仮設住宅で、復興住宅で、地域で、これまでお世話になった方とのおれしい再会がたくさんありました。何年もお会いしていないのにお話してくださっている

方がいること、「もう帰った」と思ってたよー」と声をかけて頂けること、本当にうれしく、石巻に来て良かったと思える瞬間です。また同時に、あの避難所の時代からこんなに時間が経ったんだなあ、変化を強く実感しています。1年前、新年のご挨拶で「これからが正念場」と書きましたが、その気持ちはまったく

# 土の人と風の人と

仮設きずな新聞 終刊に寄せて

Vol.1

「季節に合った旬な健康情報をお届けしたい」という気持ちで、これまで県外のボランティアが中心となり、記事を執筆してきました。私たちの使命は、ズバリ「安心して暮らせる」「暮らしの復興」です。すぐに実現できる事ではありませんし、被災地以外の地域でも課題になっています。そんな中、い

つこの時代にも変わらな大切な事は、「自助」そして「互助」だと思っっています。私たちの記事は、「自分で自分の身体を守る」、そして「家族や近い方の身体や心の事を大切にする」という「自助・互助」の基本を意識して書いてきました。健康に関する情報を広くお届け出来る機会をくださった「仮設きずな新聞」と毎回来し

みにしてくださっていた読者の皆様、そして記事を執筆してくれた医療職のボランティアの皆様、本当にありがとうございました。ボランティア東北は引き続き牡鹿半島や渡波を中心に、「愛に溢れた支え合いの地域づくり」「医療・介護・福祉が開かれた地域づくり」に取り組んでいきます。また私事ですが、昨年末に結婚いたしました。

変わっていません。常に力不足を痛感しながらではあります。できるお手伝いをさせて頂きたいと思っております。これからもよろしくお願い致します。最後に、編集長のあきさん、配布統括のたくまくんに尊敬の念を込めて。いままでも本当にお疲れ様でした。元・仮設住宅自治連合推進会 現・石巻市社会福祉協議会 西本 健太郎 (けんたるう)

引きこもりや不登校の児童・生徒・若者の支援をする団体によるシンポジウムのお知らせです。もし周りに引きこもりの方などがいたらお知らせしてあげてください。

**石巻圏域における不登校問題の現状と課題**  
～関係者の連携強化に向けて～

日時：2月12日(金) 13時～16時30分  
場所：石巻専修大学 5301教室・学生ホール  
内容：  
◎不登校問題に関するアンケート調査の結果報告  
◎シンポジウム  
◎支援団体の紹介  
主催：石巻専修大学不登校問題検討会、石巻地域不登校・ひまこもり支援ネットワーク  
問合せ：0225-22-7746 (石巻専修大/新福)

**「働きたい」気持ちを地域力で応援する**  
～1次産業の底力が中間的就労を加速させるシンポジウム～

日時：2月20日(土) 13時～16時  
場所：石巻市石巻水産物地方卸売市場 2階  
内容：  
◎イシノマキ・ファームの活動と中間的就労について  
◎一次産業従事者や支援者による講演およびパネルディスカッション  
主催：特定非営利活動法人 Switch  
問合せ：0225-25-5374 (石巻NOTE/高坂・今野)





# あぶりこつと再開物語

みんなの声に応えたい！パスタが美味しい民家カフェ  
 ことぶき町商店街内にひっそりと佇む一軒の民家。店内に入ると、すぐ左手に仏壇が置かれていた。震災後、自宅を改装して再開した民家カフェ『あぶりこつと』だ。

『あぶりこつと』は、平成元年、マスターの須田正啓さんが母親の洋裁店をリニューアルしてオープン。当初は、ケーキや飲み物などの喫茶店メニューが中心だったが、本やテレビを見ながら料理の勉強に励み、パスタやピラフ、ハンバーグなどの料理メニューを増やしていった。その結果、今やパスタは20種類に増え、本格的な料理が楽しめる評判に。そんな順風満帆の『あぶりこつと』だったが、震災の日、2mの津波が店を襲った。店内は、カウンターのままで浸水。ひとり残っていた須田さんは、水が引くまでの40分間を必死に耐え忍んだ。水が引くと窓を蹴り破り、外に脱出。2階の自宅に避難し、毛布にくるまりながら寒さをしのいだ。

その後、やむなく店はたたんだ。意気消沈していた須田さんだったが、客は口々に「店を再開してほしい」と言った。オープンから22年。『あぶりこつと』は、地元に必要な不可欠な存在になっていたのだ。須田さんは「みんなの声に応えたい！」と、震災から半年後の10月、旧店舗の隣に建つ自宅の1階で店を再開した。

この思いが通じたのか、約半年後の3月25日には思いもよらぬ朗報が。なんと、木村拓哉演じる織田信長でおなじみのトヨタのCM『Re BORN 喫茶店篇』の撮影に使わせてほしいというのだ。レンガ造りの愛らしい旧店舗の建物がCM監督の目に止まったのだという。急遽、撮影で使う部分だけを清掃、改装し、CM撮影が行われた。現店舗の壁には、木村拓哉やピートたけしなどのサインが飾られている。新名所として復活した『あぶりこつと』。まだ完全に活気を取り戻したとまでは言えないが、地元の憩いの場としてこれからも愛され続けるだろう。(ピースボート みな)

## ●あぶりこつと

- 【所在地】石巻市中央2丁目3-3
- 【TEL】0225-9612382
- 【定業時間】10:17時
- 【定休日】不定休

## ※旧店舗(レンガ造りの建物)には現在ダイニングバーGINGAさんが入っています。あぶりこつとはその奥の民家です。玄関からお入りください。

※マスター一人で調理・接客をしています。ゆめ、パスタ等の提供にはお時間がかかると場合があります。あらかじめご了承ください。



第12回 取り残され感

たかやん)ご無沙汰しております！年末年始、風邪で伏せていたたかやんです！マイナス3キロ！お久しぶりのご質問はこちら！

もうすぐ震災から5年。町の風景も変わってきました。現在仮設住宅に住んでいるのですが、なかなか復興住宅が当たらず、焦ってしまっています。ご近所さんが次々に引っ越してしまったり、現状、人をうらやみ、イライラする気持ちも芽生えてきます。この先のことを思うと不安になります。気持ちが塞ぎこんでしまう日々が続きます。また寂しさを感ずることが多くなっています。先生は大丈夫でしょうか？(50代 女性)

ドクター)久しぶりじゃのう。今は大変なときじゃな。復興住宅やこの先、住み続ける場所が決まらないこと不安や自分の落ち込み・イライラの感情が出てくることは、避難所から仮設住宅に移行したときと同じような感じかもしれぬな。取り残される不安や焦り、孤立感・孤独感がこみ上げてくること、少なからずあることじゃが、これもまた日常生活に支障がでるようじゃと大変じゃのう。眠れない、食欲がない、意欲がわかない。決断できない。感情のコントロールができない。こんなときは、精神科の先生やからころステーション、保健師さんなどに相談したほうが良いな。

あととは、こうなる前にやったり人に『話す』ことが大切じゃな。気持ちや吐き出すこと整理することが大切じゃな。話して角が立つ場面や話すがいなくて難しい場合は、遠慮せずからころステーションの電話相談を利用するとよいのう。自分の気持ちや誰か一人でも知っててくれることとで孤立感や和らぐかもしれないのう。何にせよ。一人で抱えないことじゃな。たかやん)ほんとです。ぜひぜひ利用してくださいね。住宅のことで悩まれている皆さんがよい方向になれることを祈っております！

そしてドクター！なんと今回最終回です。とつても残念です。なので、今後ご質問等あったら「直接からころステーションまでお寄せください」でいいですか？

ドクター)もちろんじゃ。これから一人一人に向き合って頑張っていくぞ！たかやん！

たかやん)はい！ドクター！お供します！ご愛読していただきたく様、ありがとうございます！

一人でも悩まないで、まず相談！  
 ●からころ相談電話  
 012003227016  
 (毎日10時~16時まで)  
 ※携帯電話からもOK  
 ※相談は無料です



雄勝の魅力・旬な情報を発信!

# 雄勝なう!!

Vol.9

皆様こんにちは。石巻市雄勝  
歯科診療所のソーちゃんこと河  
瀬聡一朗です。

今年3月で「仮設きずな新聞」  
が終刊となるという情報が  
入ってきました。とても残念で  
はありますが、始まりがあれば  
終わりがあるというのは世の中  
の宿命でもあります。これを  
ゴールとして捉えるのではなく、  
「仮設きずな新聞」編集長はじ  
め関係者の方々の新たなスー  
トとして僕も応援していきたい  
と思います。

今回も生まれも育ちも雄勝町  
で、雄勝歯科診療所のスタッ  
プでもある松田美千代さんをご紹  
介させていただきます。  
皆さま。彼女からは自身  
の東日本大震  
災の経験や皆  
様へのメッ  
セージを書い  
ていただきました。  
……  
こんにちは。  
雄勝町の松田  
美千代とい  
ます。私は2  
012年6月  
の石巻市雄勝  
歯科診療所開  
所当初より、

河瀬先生や他のスタッフと一緒  
に働かせていただいております。

私は東日本大震災当日、雄勝  
町の開業歯科医で勤務をしてい  
ました。津波から逃れるためス  
カートの白衣とジャンパーで山  
に登り、寒い一夜をそこでいた  
人達と肩を寄せ合いながら過ご  
しました。薄いスカートでガタ  
ガタ震える私を見て、太郎寿し  
(下雄勝にあつたお寿司屋さ  
ん)の山下春男さん(現在は雄  
勝から離れた所で生活をされて  
います)が、どこからかズボン  
を探してきてくださり、頂いま  
した。ズボンの温かさもするこ  
とながら、人の温かさを感じた  
ことを今でも覚えています。

何かもが失われてしまった  
雄勝町ですが、再生に向け1歩  
1歩歩いてあります。今年末に  
は大浜に雄勝診療所と歯科診療  
所が本設となります。また同じ  
敷地には保育所と子育て支援セ  
ンターが開設します。隣の敷地  
には小学校、中学校も建つこと  
になり、大浜でまた子供の笑い  
声が聞こえる様になります。  
皆さんも1歩1歩歩いていろ  
雄勝を是非見に来て下さい!

雄勝にお越しの際には雄勝歯科  
診療所にも遊びに来て下さい!



▲建設工事が進む雄勝診療所  
松田さん(右)とソーちゃん▶



……  
最後になります。私もまだ  
まだここで雄勝町の方々の何か  
しらのお役に立てればと思っ  
てあります。また、何かの形で皆  
様に雄勝の報告等ができればい  
いな、と考えております。また  
どこかでお会いしましょう。そ  
れまでお元気でいてください!  
「雄勝なう!」の連載を読んで  
いただき、ありがとうございます。  
(雄勝歯科診療所ソーちゃん)

## 編集後記

前号で終刊をお伝えしてから、  
さまざまなお声をいただいでいま  
す。「寂しくなるねえ…」「これ  
まで本当にありがとう」中には  
「資金の問題なら、俺が行政に  
言ってやろうか!」とおっしゃっ  
てくださる方までいました。この  
新聞が本当に愛されてきたんだ  
なあ…というのを、改めて実感す  
る毎日です。

そんな「仮設きずな新聞」の歴史  
を振り返ってみようということで『土  
の人と風の人』という特集を組ん  
でみることにしました。初回の今  
回は編集部のメンバーに書いて  
もらいましたが、ぜひ読者の皆  
様の声も載せていきたいと思っ  
ています。仮設きずな新聞の思  
い出やボランティアへのメッセ  
ージなどをお寄せいただければ幸  
いです。(ピースポート あき)

■仮設きずな新聞とは… ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)が2011  
年10月より、石巻市内の仮設住宅に向けて発行・配布する無料情報紙。コンセプ  
トは「仮設住宅での暮らしに役立つ情報を届ける新聞」「ココロが元気になる新  
聞」。毎月10日、25日発行。毎号約5,500部発行。

■仮設きずな新聞は以下の場所でも手に入ります。  
あがらいん、イオンモール石巻、いしのま☆キッチン、石巻市社会福祉協議会、  
1RORI石巻、おがつ店こ屋街、おしかのれん街、かめ七呉服店、からころステ  
ーション、川の上・百俵館、道の駅「上品の郷」、まじやらいん(上釜)、宮城クリ  
ニック、復興大学、包括ケアセンター(開成)、ピースポートセンターいしのまき

■「仮設きずな新聞」編集部 所在地  
ピースポートセンターいしのまき(10:00-18:00/日祝定休)  
〒986-0824 石巻市立町1丁目5-21(ことぶき町通り商店街内)  
TEL:0225-25-5602 FAX:0225-25-5603 Email:kasetsukizuna@pbv.or.jp

- 発行元 ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)
- 協力 開成仮診療所/キャンナス東北/震災ころのケア・ネットワー  
クみやぎ/街づくりまんぼう/復興大学/包括ケアセンター/真  
如苑救援ボランティア(SerV)
- 助成・協賛 認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)
- 編集長 岩元 暁子
- 配布統括 田上 琢磨
- デザイン 矢野 瑛子  
妙本 咲季
- 編集委員 伊東 孝浩/荻谷 智大  
高柳 伸康/西村真由美  
西本健太郎/野津裕二郎  
藤戸 孝俊